

四つ珠そろばんが多くなってきた

そろばんの構造は明治になって五珠1個のそろばんが次第に多くなってきましたが、一珠は依然として5個ありました。一珠は4個でよいと主張する人もいましたが、ひとつの桁に10まで表示できると、盤面に数を置いたとき、10や5に対する補数が目に見える利点があり、なかなか一珠4個への改革はなされませんでした。

昭和13年発行の小学校の算術教科書に珠算が採用されたとき、「そろばんは17桁、一珠が4個、4桁区切りの定位点のついたそろばんがよい」と指示され、小学校で四つ珠そろばんが使用されるようになってから、次第にこの四つ珠そろばんを使う人が多くなってきました。

